



ADULT
18+
ONLY

え...？

旅館のお風呂で
遊ぶなって？

...

ねえねえ見て

こういうのどう？

エロくない？

そんなこと言う割にー

おっきくしてるけど？

くみん...



雪の日：今日も地元の方に取材に行く。

仕事で書いている小説の題材は雪女。

この土地に伝わる話を聞きたいのだが、
今のところ良い返事をもらえない。

ため息をつきながら次のバスを待つ――。

...

お兄さんも雨宿り？

雨…っていうか
雪だけど…ふふ

なんかココのひと
っぽくはないから
話しかけちゃった

...

ねえ…嫌じゃ
なかつたらさ

都会のコトとか
教えてくれる？



くす：お兄さん
緊張してる？

んー：田舎じゃ
こんなの普通だよ

まあまあ

旅の思い出
だと思ってさ

…しちゃって良い？

おっ
おっ
おっ

ナニニニ
ナニニニ
ナニニニ

ナニニニ
ナニニニ
ナニニニ





Day 1

一日目

彼女の名前は椿つばきというらしい。
素敵な響きに綺麗な名前だねなんて、似合いもしない言葉が出る。
彼女はクスリと笑い、「ありがと」と建前の感謝を言ってくれた。
そうだ、彼女なら——この地方の伝承について詳しいかもしれない。

へえ…伝奇小説家?
でんき
珍しいね

じゃあ田舎にきたのも
こっち
取材—なのかな

ん…人から聞いた話
なら教えられるよ

じゃあ…
取材費徴収
しても良い?

ニ
ユ
ル

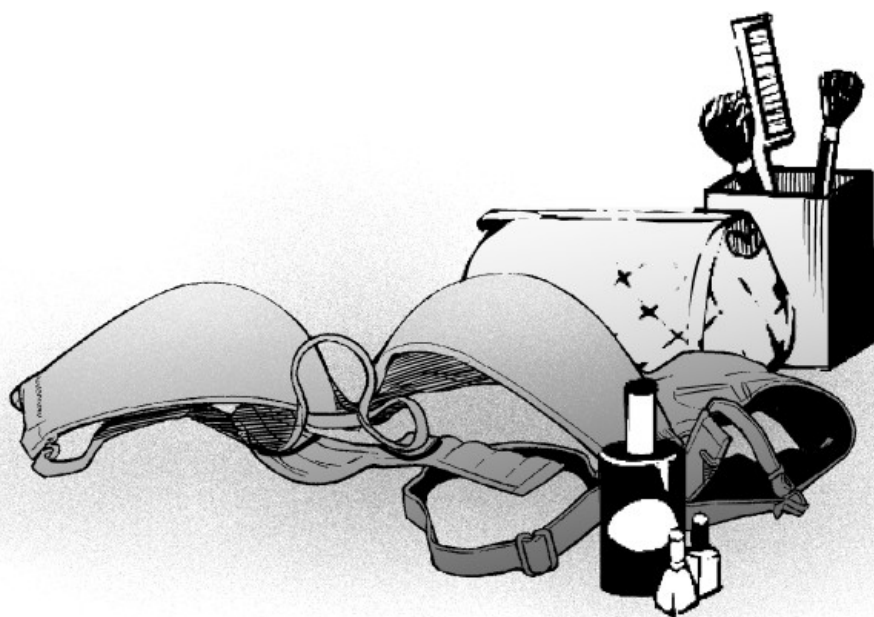
そりや対価は払って
もらわないとね なんて

今日は入れちやおつかなく
ナマで

…うそうそw
真に受けないでよ

じゃ…
するから

≡
〇〇〇〇



Day 2

二日目

椿…彼女に質問を重ねてもまるで
空を切るように躲かわされてしまう。
——まだ疑われているのだろうか…。

それとは関係なく、今日も彼女に誘われる。



いつもここに
いるのかって？

まさかそんな

私も家くらいあるよ

ちょっとボロいけどね

お兄さんは…
旅館に泊まってるんだっけ

近い？

ふーん…

びっくりしたでしょ

ここの旅館の露天、

裏口から
簡単に入れんだ

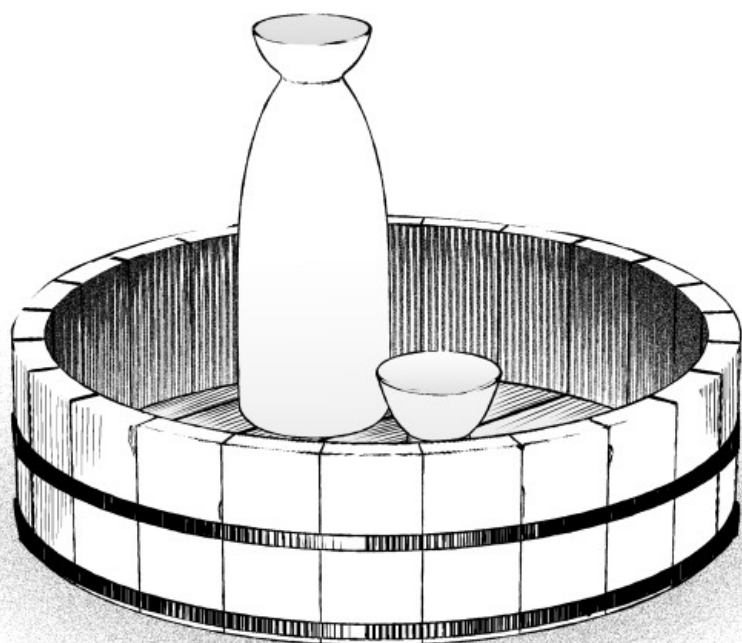
まあ普通の人間は
知らないと思うけど

犯罪？

え〜…

…じゃあ

お兄さんが
罰与えてくれる？



Day 3

三日目

変だ。

もう春だというのに積雪が止まない。
この地方は特別冬が長いのか…。

もしかしたらこの現象も
言い伝えの元になっっているのかも…。
もう少し調べてみたいと思う。



いいでしょ？

穴場なんだ
ココ

普通のヒトは
知らないよ

ラッキーだね
お兄さん♪

私が普通じゃない
みたいって...？

ま
そうかもね



ねえ

お兄さん寒くない？

震えてるけど…大丈夫？

んーん

私はへいき

人間じゃないし

…なんてね



Day 4

四日目

此処に来て数日が経つが、未だ取材不足が懸念される。
日に日に彼女の誘惑にも抗えなくなっていく。
取材費と言って性行為に及ぶこれは――

彼女にとってどんな意味を持つのだろうか…。

今日もできる？

お兄さんの…
欲しいなうって

ん？

…あー

くす

いいけど



へえー...

これが気持ちいいんだ

不思議...

ああ
ごめんごめん

気になっちゃってさ

ほら

イっていいよ

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん

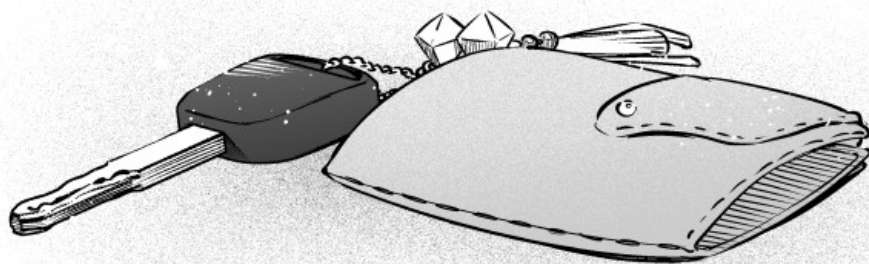
うん

うん

うん

うん





Day 5

5日目

そして、この一週間弱を境に僕は
強烈なまでに彼女に惹かれていった。

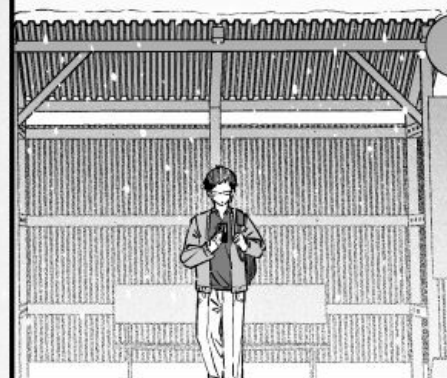
春――。

家を出るのが早かったのか、
今日は嫌に時間の流れが遅く感じる。

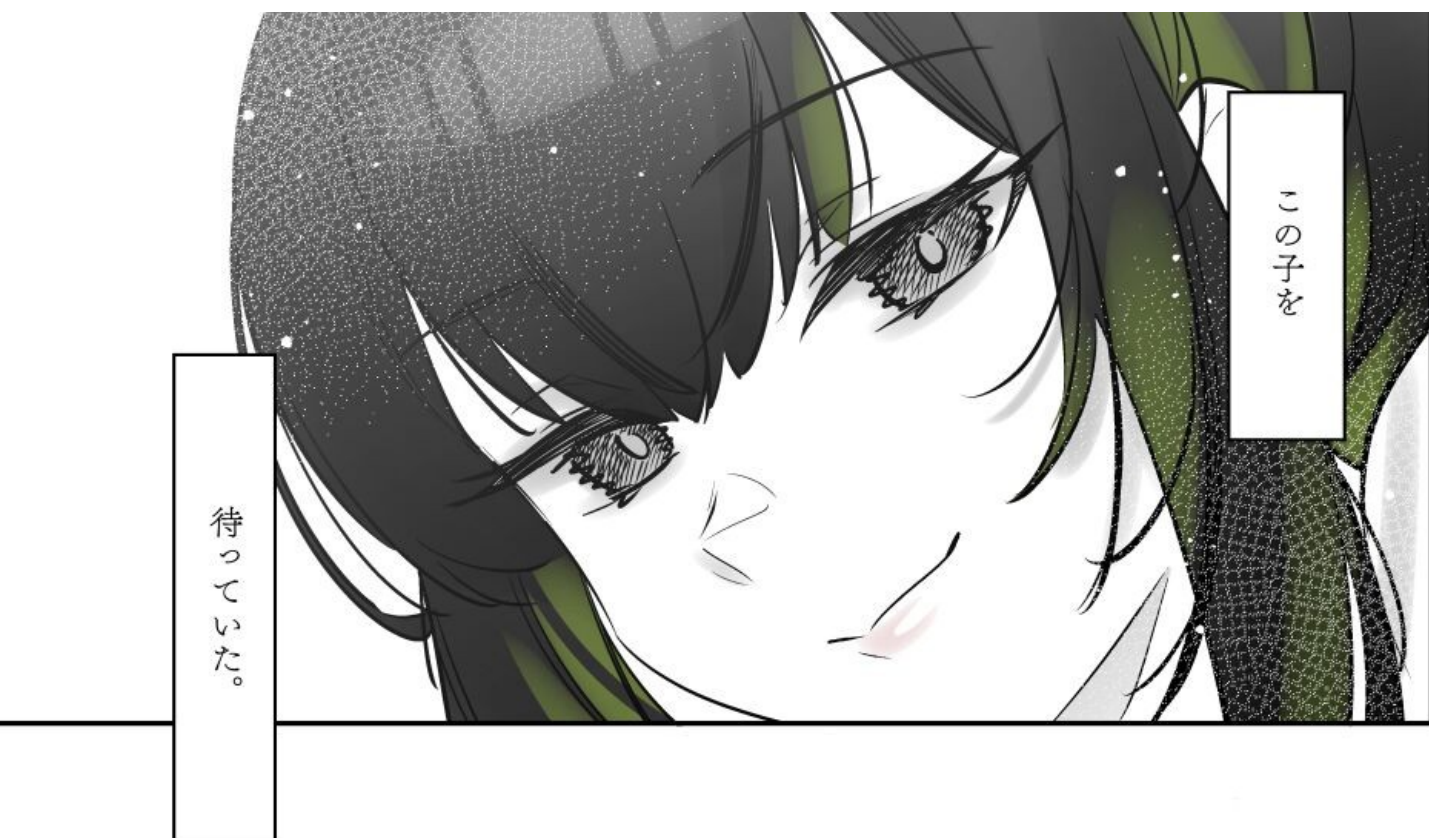


季節外れの雪が降り、

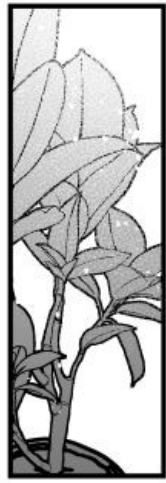
時刻通りに来ない
バスを待つ。











まあ上がってよ

大したところ
じゃないけど



ひとり暮らし
なんだ今

寂しい
部屋でしょ

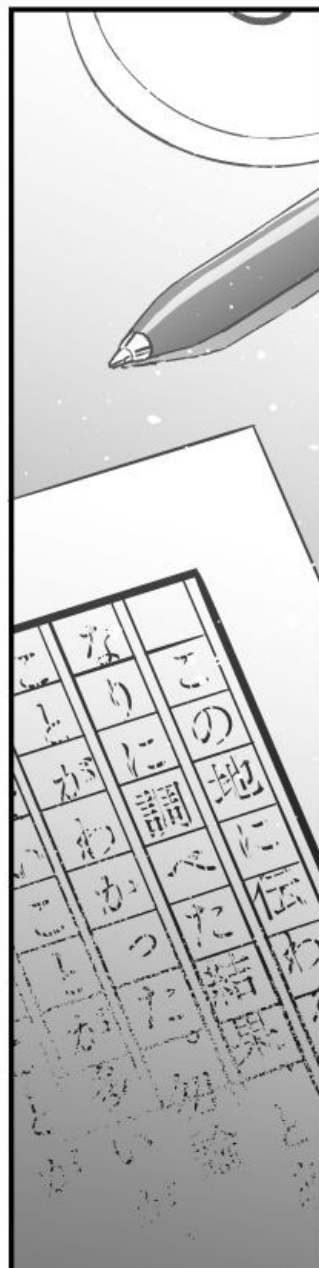


じゃあ泊まってけば？
机使っていいからさ

—言ってもファミレスで
缶詰予定だったよ



今日はお仕事？
伝奇小説家だっけ





雪女について…

なんだ…



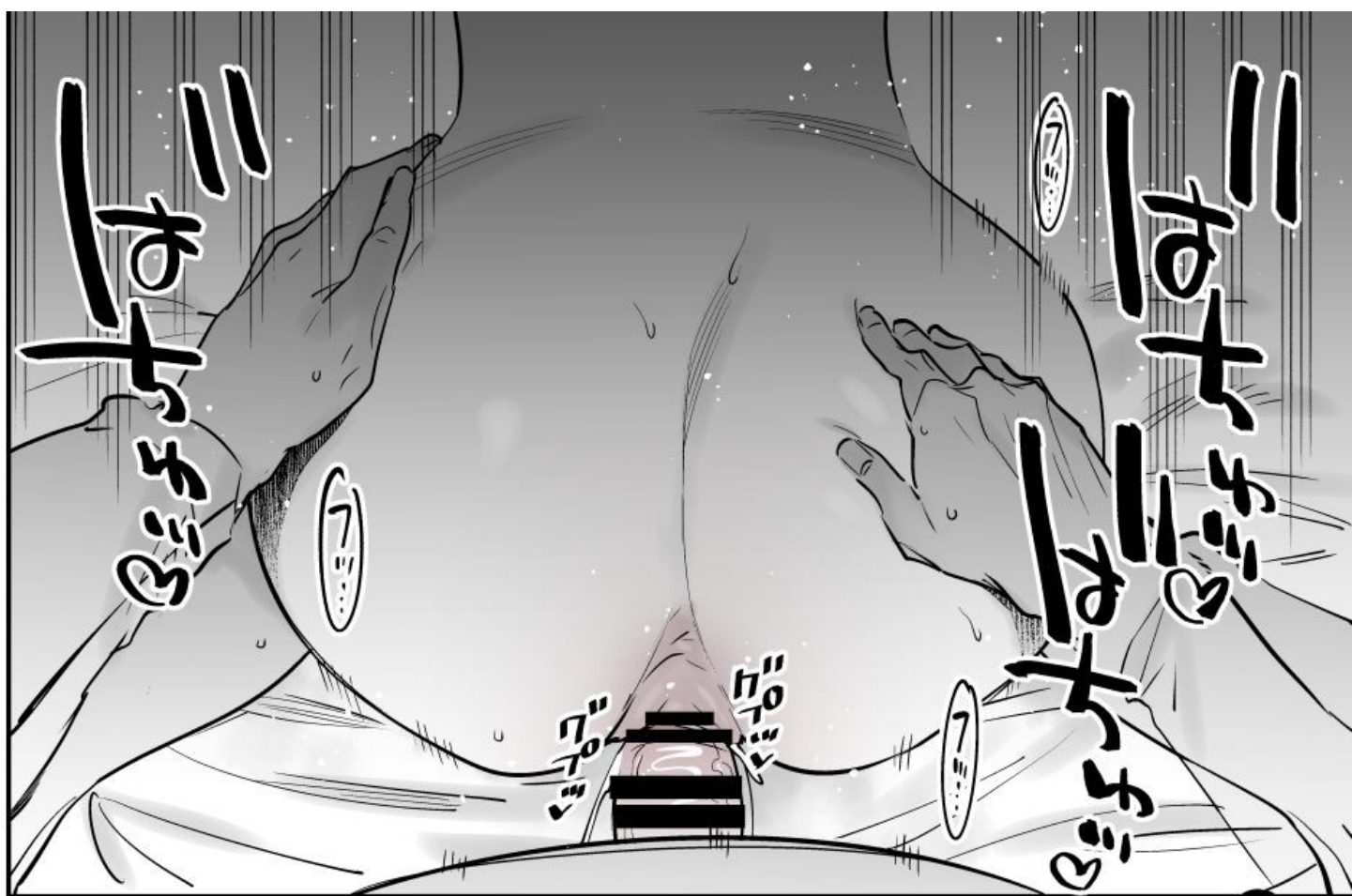
— 知りたい？
雪女のこと

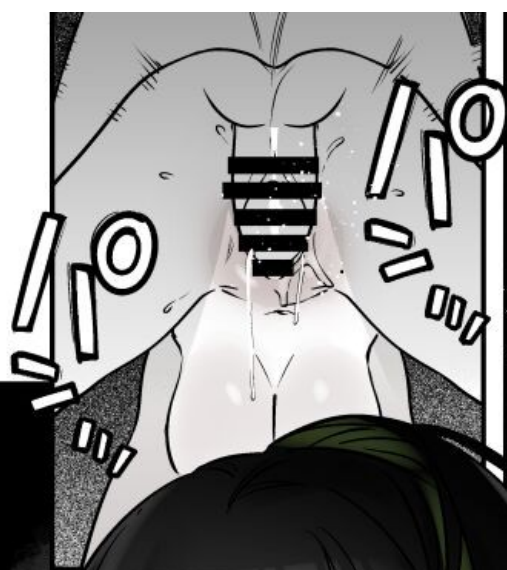
教えてあげてもいいよ
詳しいんだ私

！



その代わり—





彼女の膣内は
生温かくて――

突くたびに
うねって絡みつく。

もっと搾り出せと
言わんばかりに
きゅうきゅうと
締め付けてくる。

まるで――

熱が――
奪われていくようだ。













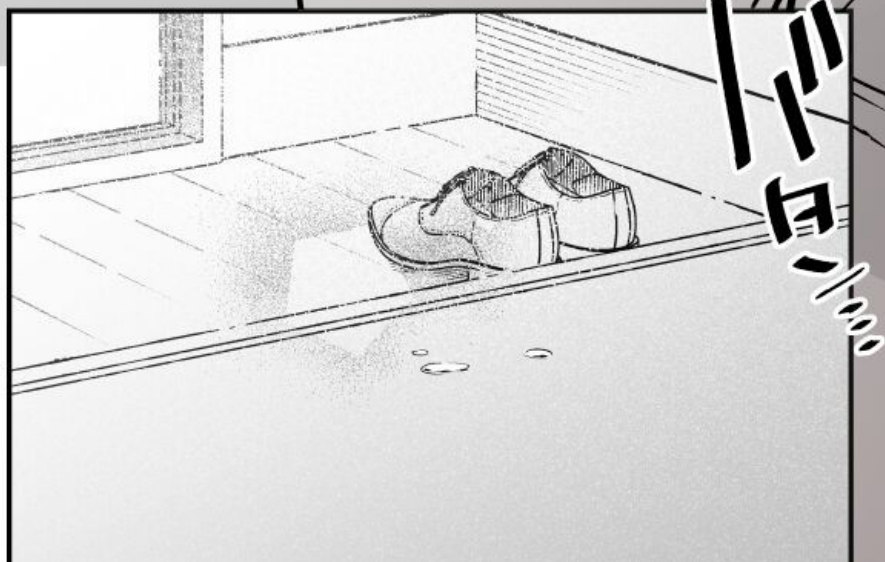






じゃまた

いつものバス停でね



パタパタ



終り
